

第2回府中市福祉計画検討協議会 会議録

■ 日 時：平成25年10月3日（木）午前10時～11時40分

■ 場 所：府中市役所 北庁舎3階 第6会議室

■ 出席者：（五十音順・敬称略）

<委 員>

足立和嗣、井上喜榮、熊上肇、近藤克浩、下條輝雄、鈴木恂子、鈴木真理子、高倉義憲、田口俊夫、塚原洋子、松村秀、横山年子、若杉晴香、和田光一

<事務局>

福祉保健部長（芦川）、福祉保健部次長兼高齢者支援課長（川田）、地域福祉推進課長（持田）、地域福祉推進課長補佐兼福祉計画担当副主幹（宮崎）、地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹（安齋）、高齢者支援課長補佐兼介護保険担当副主幹（浦川）、障害者福祉課長（松下）、障害者福祉課長補佐兼生活係長（相馬）、健康推進課長補佐（鈴木）、子育て支援課長（遠藤）、地域福祉推進課社会福祉係長（関口）、高齢者支援課地域支援係長（楠本）、高齢者支援課事務職員（石附）、障害者福祉課事務職員（石井）、障害者福祉課事務職員（布目）、地域福祉推進課事務職員（渡部）、地域福祉推進課事務職員（飯泉）

株式会社生活構造研究所（半田、柏木、大原）

■ 傍聴者：なし

■ 議 事 1 開会

2 検討協議事項

（1）前回会議録の確認について

（2）次期府中市福祉計画策定のための福祉ニーズ調査について

（3）その他

3 閉会

■ 資 料

資料1 第1回府中市福祉計画検討協議会会議録

資料2 府中市福祉計画策定 全体スケジュール

資料3-1 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画 調査概要

資料3-2 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第6期) 調査概要

資料3-3 障害者計画・障害福祉計画(第4期) 調査概要

資料4 府中市福祉計画策定に向けたアンケート調査一覧

資料5 アンケート調査票（案）

資料6-1 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画 グループインタビュー調査計画(案)

資料6-2 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第6期) グループインタビュー調査計画(案)

資料6-3 障害者計画・障害福祉計画(第4期) グループインタビュー調査計画(案)

資料7 アンケート調査票の共通項目

参考資料 広報ふちゅう 第6次府中市総合計画特集号

1 開会

事務局： 皆さまおはようございます。ただ今から第2回府中市福祉計画検討協議会を始めさせていただきます。本日の会議は、委員16名中14名のご出席をいただいておりますので定足数を満たしております。

それでは議題に入ります前に、事前送付資料及び本日配布した資料について確認をさせていただきます。まず事前送付資料ですが、資料1、資料2、資料3の1から3、資料4、資料5、資料6の1から3、参考資料です。次に、本日お配りした資料は、議事次第と資料7、また資料6の2の内容に一部変更がありましたので、修正したものをお配りしております。資料6の2の差し替えをお願いいたします。本日の資料は以上です。

本日は傍聴希望の方がいらっしゃいませんので、以後の進行につきましては、会長に議事を進めていただきたいと思います。会長、よろしくをお願いいたします。

2 検討協議事項

(1) 前回会議録の確認について

会長： 皆さんおはようございます。それでは検討協議事項(1)です。前回会議録の確認についてですが、この会議録について何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、会議録について承認されました。よろしく申し上げます。

(2) 次期府中市福祉計画策定のための福祉ニーズ調査について

会長： それでは、2つ目の議題に入りたいと思います。次期府中市福祉計画策定のための福祉ニーズ調査についてです。資料配布を中心に事務局から説明をお願いします。スケジュールの確認から具体的なアンケート内容というような形で進めていただきたいと思います。それでは事務局、お願いいたします。

事務局： それでは検討協議事項の(2)について、ご説明させていただきます。

(資料2から7について説明)

会長： 有り難うございました。事務局から報告がありましたので、それについて協議をしていきたいと思います。

初めに資料2のスケジュールの確認等について、何か確認事項等がありますか。ニーズ調査は10月下旬に発送して、11月半ば頃に締め切るということです。来年の3月をめどに計画の体系や骨子案をつくっていくというような流れになっておりますけれども、何かこの辺でありますでしょうか。

それから資料3の1、2、3とありますが、この辺については資料5とあわせて確認をさせていただきたいと思います。地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画、それから高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、それと障害者計画・障害福祉計

画ということで、それのもとになる調査項目も含めたデータがあります。何かこの辺で、こういうものが足りないのではないか、あるいはこういうものを追加したほうが良いというところがありましたらご意見をお願いしたいと思います。

委員： 障害者の調査内容を拝見しまして、対象が身体障害者で1つに括られておりますけれども、その内容はいろいろ違うのではないかと思います。内部障害ですと、生活上もかなり健常の人と近いような状態であるとか、あるいは身体障害の腎臓の透析をされている方、あるいは心臓のペースメーカーを入れている方とか、やはり要望やニーズとか、いろいろ違った点があると思います。

先日も心臓のペースメーカーを入れている方とお話をしたときに、高齢になったので、火事や災害に備えて、電化に全部したが、IHが電磁波があつてペースメーカーに非常に問題があるということです。かえって生活上、厳しい状態があるというようなお話を伺いました。やはり身体障害者といっても、いろいろな要望がそれぞれにあるかと思しますので、こういった調査の中で一括りにするのではなく、内部障害の中にもいろいろな方がいるということを含めた調査の内容にさせていただければと思います。今回、アンケートの内容を見ますと、そういった内部障害についてはほとんど関係がないというか、あまり影響がないような調査内容になっています。調査の対象を、障害を持っている方の無作為というのではなくて、もう少し分類を分けた上でのアンケート調査を実施することをお願いしたほうが良いのではないかと考えましたので、ひと言申しあげさせていただきました。

会長： 有り難うございます。資料3の3の2ページを見ていただければと思いますが、調査対象者として、身体障害者2,000人、知的障害者500人、精神障害者400人と書いてありますけれども、これは具体的にどういう根拠で、あるいは先程、委員からお話がありましたように、身体障害は肢体不自由から視覚・聴覚を含めて、内部障害、それからHIVまで含めてあるわけですから、その辺も含めて、どういう仕分けをしているのか確認したいと思います。

事務局： 障害のある方への調査ですが、手帳の括りが、身体、知的、精神ということで分かれていますので、身体については2,000名、知的に関しては500名、精神に関しては400名という形で、まずは括らせていただいております。

ご指摘のとおり、身体障害者の中には視覚障害、聴覚障害、あと内部障害という方がおりますが、それぞれの障害によって分けるというところまでは今回しておりません。いろいろな障害のある方にアンケートを送りますので、どういう障害を持っているかということは、少しお手数になりますが、資料5の調査票の右上に障害①とある調査票の2ページ目、Fの6でお聞きすることになりますので、それぞれどういう障害のある方がどのような問題を抱えているか、希望があるかというところを汲み取っていきたいと考えております。

会長： よろしいでしょうか。それと障害関係のグループインタビューについて、発達障害と高次脳機能障害が中心となりますが、グループインタビューでぜひ補足を願いたいと思います。さて、何か質問等がありますか。質問がなければ、私のほう

で質問をさせていただきたいと思います。

高齢者関係の調査の資料3の2ですけれども、実は介護保険制度が来年、再来年、変わる予定になっております。とりわけ予防給付というものが地域支援事業という市町村事業におそらく改定されるだろうということでありまして、その辺についてニーズも含めて、どの程度いて、どういう希望があるかということが、この調査の内容に入っていないというのが現状です。とりわけその中でも、現在、特定高齢者、第1次と第2次がありますが、5%程度という方も含めて、ぜひこの辺について調査項目も含めて考えていただければと思いますが、その辺についてお願いをしたいと思います。

事務局： 予防給付それから要支援等の関係が介護保険制度から抜けるという関係ですが、まだ正式な決定や具体的な指導等について国あるいは東京都から来ておりません。従いまして、その辺のところも勘案しながら、検討していきたいと思いますが、よろしくをお願いします。

会長： はい。それではお願いします。それともう1点ですが、高齢者の調査8、認知症の質問項目についてです。ご存じだと思いますけれども、国からオレンジプランというプランがでて、今年の4月から5年間かけて、認知症に対してかなり力を入れてやっていきますよということで、いろいろモデルで作りました。それらに則した質問項目をぜひ確認も含めてしていただければ有り難いというふうに思います。

事務局： こちら、国のほうの施策もありまして、国からの指導の内容について入れる予定だったのですが、確認の上、不足する部分がありましたら、調査内容を調整していきたいと思いますが、よろしくお願いたします。

会長： 有り難うございます。よろしくをお願いします。では、ほかに何かありますか。

委員： グループインタビューですが、ご説明を伺いますと、前回の協議会のときに出た、多問題のご家族のことや地域全体でみていく部分というのは、グループインタビューのほうで横断的な形でフォローしていくというようなお話でした。おそらく資料6の1の地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画のグループインタビューで計画されているのかなと考えるのですけれども、それでよろしいでしょうか。

会長： 事務局、お願いたします。

事務局： 委員のご指摘の通りです。前回の協議会で、多問題の家族への支援ということでご意見をいただいておりますので、典型的なもの、当てはまらないものにつきましては、基本的に地域福祉分野でフォローしていこうという基本設計をしております。ご指摘のような多問題世帯については、グループインタビューの方で行います。事例形式的な調査になってしまい統計数字という形で出すのは難しいのですが、そういった予定としております。

委員： 有り難うございます。2点質問です。資料3の1の3番目の調査種別のところですが、特にこの地域福祉分野では、地域の中での福祉の担い手の皆さま方800名程度、民生委員、自治会、老人クラブへ調査されるようになっておりますが、この地域を支えてくださっている方々というのは障害者福祉であれ、子育てであれ、高

齢であれ、全部ここにかかってくるというところがあるわけですが、調査はどういう順番でなされるのかということが1点です。

2点目ですが、資料6の1のグループインタビューの調査対象は、包括のほうは主として高齢者の部分ですし、子ども家庭支援センターのほうは子育ての部分ですし、これを①から⑥まで全部別々のグループであるのか、①から⑥まで、横串というか混在した形で、まさに地域福祉的な観点からのインタビューをされるのか、私は後者のほうが望ましいと思っているのですが、この2点が質問です。

会 長： 事務局、よろしくお願ひいたします。

事 務 局： ご質問の1点目、担い手調査の順番についてですが、基本的には、担い手調査の対象とされている方に、一斉にアンケート調査票を送るかたちを予定しております。それと同時並行でグループインタビューを行いまして、その両者の結果を合わせた上で分析をするという方向で今考えております。

また、グループインタビューの実施方法は、若干調整中の部分もありますが、基本的には地域包括支援センター、地域生活支援センター、子ども家庭支援センター、民生・児童委員、福祉事務所こちらは生活保護を想定しておりますけれども、あと地域福祉の社会福祉協議会というようなメンバーを一堂に会しまして、一緒に話し合ってください。そして、そのそれぞれの分野で、押さえるのが難しい、あといくつかの分野にまたがってしまって対応が難しいというようなケースについて、どうアプローチしていくかということをお話しいただく予定としております。

会 長： よろしいでしょうか。

委 員： グループインタビューを行うときに、この協議会の委員の皆さん方が傍聴させていただくことは可能でしょうか。

事 務 局： 傍聴等につきましては、スケジュール等を合わせた上で対応が可能であれば、その方向に進めさせていただきたいと考えております。

会 長： よろしいでしょうか。

委 員： 私は保健計画評価推進協議会から参加させていただいているのですが、質問が2点あります。1点目は、今、委員さんから出ておりましたグループインタビューの方法についてですが、グループインタビューの方法論は、どういう形ですか具体的にもう決まっていますか。グループインタビューというと抽象的になってしまうので、こんな感じということが決まっていれば教えていただきたいのですが。

会 長： 事務局、お願ひいたします。

事 務 局： 方法論として、基本的には、若干調整中の部分もありますが、事務局側のほうでテーマ設定をさせていただき、調査対象とされている方に一堂に集まっています。資料6の1を参考までにご覧いただければと思いますが、例えば、地域福祉のほうであれば、一堂に会していただいた上で、制度の谷間に入ってしまうようなケースや、例えば、「どのような点で困ったか」とか、「行政との連携がうまくいかないことが多かった、こういう場合がうまくいかなかった」といった事例を出していただきます。そしてさらに、「どういった形で方向性、仕組みがあればいい

い」といったご意見をだしていただき、課題や要望というふうにもとめ、抽出していくようなことをイメージしております。手法としては、このような形のことを想定しておりますけれども、まだ調整中の部分もありますので、ご意見等をいただければ、ぜひ追加・修正を考えていきたいと考えております。

委員： 有り難うございました。グループインタビューをするときの方法と、それからそれをまとめていくときというのは結構難しいので、どうなっているかなということ、現段階の様子を聞かせてもらいました。

もう1点ですが、高齢者の調査11のケアマネージャーさんへの調査なのですが、調査そのものについての質問ではないのですが、これは実際にその市内で活動なさっているケアマネさんを、全員を対象にしておりますけれども、供給をする側として、市内でケアマネージャーの資格をもっているけれども、それを使っていないとか、そういうようなデータを取るチャンスというのはありますでしょうか。この調査項目に入れてほしいということではないのですね。私は世田谷に住んでいるのですが、ある意味、ペーパードライバーのように、ケアマネの資格を持っていて、いろんな会議とかは出ますけれども、実際に働いていなくて、その中でも問題を感じていることがあって意見を出すこともできますけれども、府中市においては、この調査と離れて供給側としてケアマネさんが足りていれば、これでいいと思うのですけれども、その点をどういうふうにしていらっしゃるかをご参考までにお伺いできればと思います。

会長： 事務局、お願いいたします。

事務局： 今お話がありました、ケアマネージャーの資格を持たれていて、現場を離れている方への調査ですとか、いわゆる福祉人材の発掘になるかと思いますが、現状、このアンケート自体には設問がないというのはその通りです。市としては、これから福祉人材の発掘という取組みも必要になってくるかと思いますが、今後の状況をみて、検討させていただければと考えております。

会長： よろしいでしょうか。人材発掘でいえば、介護保険法の改正により、5年に1回ずつ研修を受けなくてはならないという更新研修というシステムがあり、私もやっているのですが、その資料を、財団のほうに確認すれば、大体、人材がわかりますので、その辺の確認もしていただければ有り難いかなと思います。何かありますでしょうか。

委員： アンケート調査ですけれども、グループインタビューとは別に郵送の回収率というのはどんな調査でも低いと思うのですね。例えば、ご高齢の方ですと、もともと文字が読み難くなっているとかいうことがあって、送られても、「これは何だろう」ということで、新聞紙のチラシの中に一緒に紛れて積まれているという話は普通にあると思います。その場合に、今回の調査についてはどうされるのでしょうか。例えば、返答がなかったところは、何かしら生活の支障があるというところかもしれないし、ニーズがあるかもしれません。そこに情報を提供して、例えば、ご高齢のところに訪問をかけるきっかけにするとか。あるいは今回の計画についてはそこま

ではしないということですか、その辺りを、郵送調査の回収率にかかるフォローの部分ですが何かありますでしょうか。

会 長： 事務局、お願いいたします。

事 務 局： ほとんど郵送という形ですが、医療関係、病院等の関係につきましては、こちらから持参し説明を行い、一定の期間を置いて回収に伺うという方法で対応する予定です。また、高齢者の方への対応としては、関係機関のご協力のもと、必要に応じてお伺いするなど、その方の見守りも含めた形で対応したいと考えておりますので、ご了解いただければと思います。

委 員： 医療機関ですか、実際に顔を出すということですがけれども、ほかの在宅の、特にサービスも使っていないような、アンケートが埋もれてしまうようなおうちについても同じような対応はできそうですか。それは難しそうですか。

事 務 局： 一応、不特定多数の方につきましては、まずは郵送しまして、ある一定期間が過ぎて、まだ回収が得られない場合については、地域包括支援センターの協力を得て働きかけを行っていく方式を取っていただければと思います。

会 長： 参考までですがけれども、前回の調査はどのくらいの回答があったか、ちょっと確認していただければと思いますが。

事 務 局： 前回は行いました調査につきまして、回収率を簡単にご説明申し上げます。まず地域福祉分野ですが、平成 19 年 10 月に調査をしまして、回収率 54.6%です。高齢につきましては、若干形式が違いますが、平成 22 年の 11 月に調査を行っておりまして、65 歳以上の高齢者一般ですと 71.6%で、介護予防対象者ですと 85.7%、あと介護サービス利用者ですと、居宅サービスで 62.9%、施設利用者で 55.0%という形になっております。また、ケアマネさんへの調査を前回は行っていますが、こちらが 52.1%で、介護事業者の方が 62.0%、医療従事者の方が 58.3%となっております。障害者の方の調査は、手帳別に、身体が 76.4%、知的が 73.0%、精神が 46.0%です。難病の方が 83.0%、事業者の方が 78.4%です。調査については平成 19 年 10 月の調査です。

会 長： 有り難うございました。わりと妥当な調査の回答率といたしますか、わりといいと思いますけれども、精神障害者の方の回答率がちょっと低いですね。ほかに何かありますでしょうか。

委 員： グループインタビューの方法ですが、資料 6 の 1 の調査対象が①から⑥まで、このいろいろな団体、皆さん一緒にするのですね。各団体から何人選ばれて、大体何人ぐらいとインタビューをなさる予定なのでしょうか。

会 長： 事務局、お願いいたします。

事 務 局： グループインタビューですが、基本的には一堂に会してディスカッション形式となり、数が多いとなかなか成立しにくいという事情がありますので、大体 10 名までいかない、1 桁程度のグループで 1 グループという予定にしています。

地域福祉分野ですと、例えば、民生・児童委員ということであれば、民生委員の代表者の方、1 名から 2 名程度を今想定しております。各分野の代表ということで、

お集まりいただいた上で議論を進めていただくことを現在考えております。

会長： ほかに何かありますでしょうか。

委員： 調査結果の、アンケートの回収率ですが、こういうものはひと目でわかるように表にあらわして数字で出していただければ大変有り難いと思います。

会長： 次回、今年度の調査の回収率も含めてできれば比較できますので、そういう形で作成をお願いしたいと思います。何かありませんか。

委員： 先程から出ております回収率の問題ですけれども、多くて85%、少なくても50%というのですけれども、やはり50%以上なければ回収してもあまり効果が出てくるのかどうかというのはわかりませんが、この回収率を上げるための方法が何かあるのではないかと思いますけれども。

会長： 事務局、その辺、どうでしょうか。かなり努力はなさっているとは思いますが。

事務局： 調査のときには、必ず回収率の向上の取り組みということでご指摘をいただくところでありまして、事務局としまして、取り組みのほうを若干ご紹介させていただきたいと思っております。

広報周知をするのはもちろんなのですが、各部会のほうでアンケートの調査票を作成していただいているときにも、回答の負担が大きいという意見がありましたので、回答の負担を少し軽減するために、設問数を絞ったりしてなるべく書いていただきやすいような調査票の作成に取り組んでいるところであります。

また先程の質問でありましたが、関係機関に対しまして今回調査の協力を依頼する予定としておりまして、先程、地域包括支援センターのお話を出させていただきました。例えば、サービス事業者の方ですとか、障害者で言えば、地域生活支援センター、民生・児童委員の方に、「こういうアンケート調査をやりますのでご協力願います」とか、「近所で特に高齢者の方で書けないとか、事業者さんにご相談いただく事例が結構多いということで伺っておりますので、そういう場合フォローをしていただく」ですとか、そういったことで依頼をする予定にしていまして、なるべく調査票の回収率を上げるような取り組みを引き続き進めていきたいと考えております。

会長： よろしいでしょうか。

委員： 私は障害者のほうの障害者計画推進協議会の座長をやらせていただきまして、この委員を仰せつかりました。障害者の調査票をつくる段階では、比較的ベストなものを目指したつもりなのでありますけれども、高齢者分野の調査であるとか、地域福祉の調査に対して、今日、各委員さん方のご指摘がありまして、障害者のアンケートをつくるときにそこまでちょっと私ども至りませんでした部分が非常にあります。今さら引き返し、再検討というわけにはいかないのですが、実施の過程においてちょっと障害者福祉課とも相談しながら、先程ご指摘のありました回収率をどうするか、なるべく回答の負担を軽減していくといったことについては、ちょっと短い期間ではありますけれども、再検討させていただきたいと考えております。本日は貴重なご意見を聞かせていただきました。

会 長： 有り難うございました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

委 員： 調査の結果ですけれども、回答がたぶん少なくなると思うのですけれども、回答された方の意見を尊重してやっていただきたいなと思ひています。やはり調査をするとなると、障害者の人たちもバツ、マルをつけるとか、簡単だといひのですが、文章を記入するとかいひたことがちょっと難しいので、もっと調査の方法を、バツ、マル回答ということにしてもらえたら、回収率が良くなるのではないかなと思ひます。私のほうの団体にもよく皆さんにもお伝えして回収率を上げたいと思ひます。よろしくお願ひします。

会 長： 有り難うございます。

委 員： 2つほどお伺ひしたいと思ひます。

1つは、グループインタビューの調査対象、特に地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画のグループインタビューの対象メンバーなのですけれども、私は自治会の関係で参加をさせていただいているわけですが、調査項目の中に、例えば、市民との協働のあり方、あるいは、市民を地域福祉活動に巻き込むための方策、これらが調査項目に入っておりますけれども、現実には今、市民と自治会との関連というのは非常に深くなってきておまして、実際、福祉活動等につきましても、自治会のメンバーが具体的な団体という形になるかどうか、任意団体ですのでわかりませんが、深く関わってきている実態があります。そういう関係で、グループインタビューでできれば自治会関係者の意見、意向というものも把握をしていただきたいと思ひています。それがまず第1点です。

2つ目には、このグループインタビューというのは生の声を聞くということでは大変有意義な試みかと思ひます。統計上出てくるこのアンケート調査と違ひまして、具体的な微妙なニュアンスというものも含めて把握ができるという意味では非常に重要な、また大切な調査だと思ひます。特に、私が申しあげて大変失礼なことだと思うのですけれども、現状の実態を率直に把握をするということになれば、いろんなご意見、ご希望、あるいは実態というものが出てくると思ひます。このインタビューに臨むメンバーは主に福祉保健部の方が調査されるということなのでしょう。そうなりますと、私の立場で勘ぐってはまづいのですけれども、やはり第三者的な公平なまとめというものが求められると思ひますね。実際、施策を進めている立場からまとめるということになれば、それは当然、勘ぐってはまづいですが、利害誘導ではないのですけれども、そういう方向にならざるを得ないというのが過去のいろんなこういう統計とか、インタビューの結果で出てきているというものもあります。そういう意味で、コンサルの方が参加されると思ひますが、その辺の取り組みについてできるだけ公平に実態を正確に掴むというインタビューであつてほしいなというように思ひます。以上です。

会 長： 事務局、お願ひいたします。

事 務 局： 今、ご指摘がありました点、まず1点目、自治会関係者への取り組みの状況の確認ということですが、今、こちら調査対象のほうを挙げさせていただいてお

りますけれども、これで確定ということではありませんので、自治会さんですとか、ほかに関係団体等を確認して、参加の意向を確認させていただきたいと考えております。もし可能であれば、入っていただいた上でご意見を頂戴できれば、なおより一層有益な調査になるかと考えております。

2点目で、とりまとめで、いかにその客観性を担保するかということでのご指摘かと思えます。実際には、事務局として福祉保健部の事務局とコンサル事業者が実施していくことになるのですけれども、公平性をどう担保するかというところ、ご議論があるかと思えますが、調査をした上で、調査結果の協議ですとか、こちらの協議会は全体会になりますけれども、各分野の審議会、協議会がありますので、そちらのほうに、まずその場の結果をお出しした上で、それで評価をいただくのが客観性を担保する上での方法のひとつだろうと考えております。

ただ、インタビューの過程でさらにということであれば、技術的などところもあるかと思えますので、コンサル事業者さんのお知恵を拝借しながら詳細を組み立てていきたいと考えております。

会 長： この件に関してですが、府中市の第6次総合計画でも盛んに協働という言葉を使っております。そうしますと、そういう担い手はどういうところになるのかということなのですけれども、先程書いてある、このメンバープラス地域福祉関係でやっている自治会とか、老人クラブというのが協働の中に入ってくるだろうと思えるのですね。ただ、そういう意味では、トータル的な、それから協働の核になるようなところも含めて、しっかりと論議をしておいていただければ有り難いなど。そうしますとやはり第6次総合計画の内容がしっかりとなくなっていくだろうということでもありますので、その辺も含めて考えていただければと思います。よろしく申し上げます。ほかによろしいですか。

委 員： 先程から回収率のことが出ていましたけれども、私の経験からいいますと、自宅にかなり郵便がきます。そうすると、ちょっとみて、投げてしまうとか、そういうケースが結構あると思うのです。それでひとつお願いですが、このアンケートに、もし可能であれば、色彩感覚が入ったほうがいいのかなど。そうすると注意していただけるのかなという感じがします。

それからもう1点は、先程のお話ですと、アンケートを郵送してから回収するまでの調査の期間が長いと、まだ時間があるなということで、どうしても机の横に置かれる可能性がありますので、可能な限り、これは短時間で回収したほうがいいのかなどという感じはしております。以上です。

会 長： 有り難うございます。その辺については、一番集まりやすい期間を検討していただければと思います。

事 務 局： アンケートを色つきにということですが、予算の都合もありますが、できる限りの対応をさせていただきたいと考えております。期間につきましては、コンサルさんとも相談しているのですが、大体2週間前後がいいということを経験上いわれております。今の予定では、10月25日前後から11月11日ぐらいまでを想定してお

ります。若干2週間より長めになるのですけれども、そのような設定をさせていただいておまして、期間的には現状ではこれがベスト、一番回収率が上がるであろうと想定しています。また、締め切り後も一部送られてくるアンケートがありますので、できるだけそういったものについては取り込む方向で調査結果を出すことで今予定しております。

会 長： 有り難うございます。よろしいでしょうか。

副 会 長： 皆さんからいろいろなアドバイスとか助言をいただいて、よりいいアンケートになるかと思うのですが、私も高齢者の介護保険の協議会のほうでアンケートをまとめまして、その反省点があります。ここでひと言述べさせていただきますのは、3つのアンケートの高齢者のほうですが、これはたぶん、全国どこの自治体でもこれだけの精緻な介護保険のアンケートを実施するところはない、これは全国に誇ってもいいアンケートではないかと。しかし、これは少しも自慢になりません。こんなアンケートをしたからといって介護保険のサービスが全国でいいわけではありませんが、また計画が素晴らしいというわけでもなくて、結局、調査のための調査なのですね。あまり誇れない、受ける側は、先程、皆さん、アンケートに回答する側のことをおっしゃいましたけれども、ほかのアンケートは23問ぐらいの中で、高齢は50問以上あるというアンケートで、これは回収率がそれなりに高いので、とても協力していただいているかなとは思いますが、ちょっと反省点です。こんな12種類もあって、学問的な何か課題をテーマでまとめるのなら、これは意味があるのですが、計画に合わせてこんなに精緻なアンケートを取って、反映できるか、聞かずにがなの調査になってしまっても意味がないので、また手間も大変ですよ。それがちょっと反省点で、もう少し実際のサービスで利用者に反映できるテーマのアンケート調査でもいいかなと。

それと同様で、今、皆さまからグループインタビューについてのご意見をいただきましたけれども、まさにグループインタビューもそうで、いろんなポジションの方からインタビューいただいても、それが計画に反映されるわけでも、サービスにすぐいくわけでもなくて、ただ参加していただいた方に、先程、市民参加とか、協働とか、これからはみんなでまちづくりや地域福祉を考えてやっていかなければいけないと、そこに気が付いていただくためのグループインタビューなら意味があると。ああしてくれ、こうしてくれ、ここが足りない、そればかり言うていただくためのインタビューでは意味がないので、その辺の落としどころを、グループインタビューをまとめるファシリテーターの方が上手にやっていただけたらなど。それなら手間暇をかけて来ていただくということは、ある意味で、その方たちが参加することにもなるので、当事者の方にも、地域福祉をみんなでつくるというのを再確認するためのグループインタビュー、ぜひそこを目的に、成果を出したいと思いません。以上です。

会 長： 有り難うございました。今、副会長のほうから調査の概要等について意見がありましたけれども、私も地域福祉の審議会のまとめ役をさせてもらっていますけれど

も、確かに盛んにこういう委員会とか、あるいは市民と集う会とかということ盛んに今言われています。市民参画という、参加ではなくて、参画ですよ、というふうに言われていますけれども、市民の方がそれをどれだけ納得して参加しているか。やはり、こういうふうにしてほしいとか要求は出ますが、さて自分達がそれに対してどういうことができるかということも含めて、やはりこの委員会も含めて、そういうアンケートも含めて、確認をしていくというのが一番大切なのではないかなと思っておりますので、ぜひそういう視点から確認をさせていただければ有り難いなと思っております。ほかに何かありますか。

委員： アンケートで障害者の方が書きにくいというお話がありましたが、マルを付けること自体、大変な方もいらっしゃるのだったら、本当に回答しにくいのだろうなと感じました。市の方がそばにきて対応するなど、そこまで手間がかかることはとてもできないと思うので、それぞれの方で、大変なこともあると思うのですけれども、もうちょっと回収率が上がれば本当にいいなと思いますが、その対策もそれぞれでちょっと難しいのかなというのを感じました。

会長： 有り難うございます。そのほかに何か、確認も含めてありますでしょうか。

委員： ひとつアイデアなのですけれども、グループインタビューの方法とか、まとめ方とか、いろいろこれからディスカッションしていただくようですが、私の経験でいいなと思っておりますのは、グループインタビューで話し合っ、そして、それをホワイトボードを2枚ぐらい使って、幸せの木でも何でもいいのですがタイトルをつけて、幹を描いておく。そして出てきた意見を、少し大きめに書いて貼っていくと。自分が口で話したことと、他の人が話したことというのが共通していたり、違っていたりというのが視覚的に見えるし、また、そのできた木の中から、ではどうしたらいいだろうということが出てくると、あまり、苦情だけを並び立てるとか、対応できそうもないことばかりいただいてしまったということにはならないという経験があります。それを例えばデジカメで撮って、委員さんにもう一度お返しするとか、そんな形で視覚化したことを、もう一度参加してくださった方にインプットしていただいて、考えていただくという方法を、まちづくりなどではやります。こういう風に皆さん、にこにこ元気に、最初は結構いろんなことを言っているのですけれども、まあまあ実現可能なみみたいな意見も出てきます。ひとつアイデアとしてご提案します。

会長： 有り難うございました。KJ法といわれるものですが、ぜひその辺も含めて考えていただければというふうに思います。あと何かありますか。

委員： アンケートの回収の件なのですけれども、2点あります。

ひとつは冒頭、今日の会議でご説明いただいたような府中市の総合計画を受けて、それぞれの福祉計画の少なくとも近未来、3年間ぐらいの福祉計画をつくっていくベースになるアンケート調査なので、ある意味、非常に施策上、重要なことだと思います。その施策のもとで市民は生活をしていくわけですが、その関係性というか、このアンケートの持つ意味というのが、やはりなかなか事業者にも理解されておら

ず、まして市民の皆さま方にとっては、「また面倒臭いことを言ってきたよ、しかもこんなにあるのか」というようなマイナスイメージから入ってしまいます。私自身、職場にいて、いろいろなアンケートをいただくと、面倒臭いな、厄介だなと思うようなこともままあるものです。でもそうではなくて、このアンケートはものすごく自分の生活に密着したものにつながってくる重要なアンケートなのだという
ことを、「普段の市場調査だとか、ニーズ調査とかというようなものよりは、もっと自分の生活につながってくるものなのだ」というような受け止め方をどこかでしていただけないと、回収率というより、実効性のある調査、ニーズ把握にはなりにくくなるなという感じがいたしまして、それをどうすればいいかなと思います。

ひとつには、ケアマネさんの回答率が一番低いというのは一体どういうことか、ということ。最も回答しなければいけない立場にいる方たちが、ケアマネジャーとしてやらなければいけない業務の複雑さに忙殺されて、本来の業務以外のことはもう目がふれないというような、ゆとりのない現状だったりもするので、やはりその中で、事業所にはもう少し徹底してとても重要な調査だということをどう知らせていくか。

あるいは、その2つ目にも絡むのですけれども、ケアマネさんやヘルパーさんといったサービス提供をしているスタッフに、利用者から「こういうものがきたのだけれども、記入を手伝ってくれないか」とか、「代わって書いてくれないか」というような要望がおそらく出てくると思うのです。そのときに、それはヘルパーさんのサービス内容、ケアプランの中に入っておりませんと、それは介護にかかわるサービスではないから、自分にはできません、というような回答が、真面目なヘルパーさん、あるいは大半のヘルパーさんはするかもしれないのです。けれども、言ってみれば、ケアプランの中にこれは社会参加のための非常に重要な自己実現のための自立のためのひとつのツールなのだというふうなことがあれば、それに対してヘルパーさんの援助は可能という道が開けてくるかもしれないのです。そこまで考えたケアプランなんていうのは到底期待できませんので、そういう場合、ヘルパーさんがこういうことの手伝いができるのか、できないのか、それは生活支援の範疇なのだから、それは介護報酬の請求の時間の中でやられては困るとかという話になってくると、おそらくその代弁者として、あるいは代行者として手助けする人材というのが身近にどんどんいなくなってしまうというようなことがあったりするので、包括で回答者をフォローしていただけないというお話ですけれども、それもおそらく限界があるのかなと思います。そういう公的サービスに乗らないサービスを、今後地域の支え合いの中でどうフォローしていくかというのが、この課題でもあるかもしれないのですけれども、非常にぐるぐる課題がめぐりめぐってしまうような地域の実情というようなことも理解をした上でのアンケート調査でないとなかなか難しいのかなという感じもしています。

会長： 有り難うございました。ぜひその辺も踏まえて確認をしていただければと思います。確かに一番の中核のケアマネさんの回答率が低いという、おそらく 50 ケース

持っていると思いますので、なかなかできない。ぜひその辺も含めて努力をお願いしたいというふうに思っております。ほかに何かありますか。

それでは、この資料7までの議題は、これで終わりにしたいと思います。

検討協議事項（3）のその他について、事務局から次回の日程も含めて、よろしくお願ひしたいと思います。

（3）その他

事務局： まず、ご協議いただきました福祉ニーズ調査について、今後のスケジュールですが、先程もご説明したので繰り返してなってしまうのですが、本日の福祉計画検討協議会終了後、いただいた意見等を調整した上で、アンケート調査につきましては、10月末に対象者の方に発送を行う予定としております。グループインタビューにつきましては、アンケート調査と並行して順次進める予定としております。またアンケートを回収しまして分析した結果につきましては、一応、12月中をめどに速報という形で取りまとめる予定としておりますので、おそらく調査結果の概要を含めまして、次回の協議会にてご報告ができるものと考えております。

次回の協議会は、調査結果の概要をまとめた時点で報告をさせていただきまして、まず評価をいただくという予定としております。時期的には12月中旬以降、もしくは1月頃の開催を予定しております。日程は調整中ですが、委員の皆さまのご都合をご確認させていただいた上で、具体的な日時・場所をご連絡差しあげたいと考えております。お忙しいところ大変恐縮ではありますが、ご出席をお願いします。

会長： 次回は12月の中旬以降、あるいは年を越しまして1月中ということですが、その辺について調整をするということです。

なお、今日、意見が出たものについて、一部、質問項目を変えたりするところもありますので、それについては申し訳ありませんが、副会長、会長に一任させていただいて、チェックをさせていただければ有り難いと思いますがよろしいでしょうか。

それでは第2回府中市福祉計画検討協議会をこれで終了させていただきたいと思ひます。お忙しいところどうも有り難うございました。

（閉会）